

価値観研究プロジェクト

Value Study Project

国際基督教大学における価値観研究

1960年代国際基督教大学では、全人格的な教育という教育理念の実現には、学生の一人一人が人格形成を努め、課せられた社会的役割を正しく果たすときの意志決定を支える基盤である価値観の究明が重要であると考えられた。1961年にM. E. Troyer教授を中心に「大学生の価値観」研究班が組織され、1966年まで調査が行われた。それは資料収集のためだけの調査ではなく、調査を通して学生たちの精神発達を促し、その変容を出来る限り科学的に査定するという、いわゆるアクションリサーチを目指していた。また、1980年代初頭、1990年代および2000年代に入ってから、同様の調査研究が断続的且つ部分的に行われてきた。

60年代においてTroyer教授が担当し、大学要覧に載せられた社会科学科共通科目「価値の研究」の摘要は次の通りである。

「この科目の目的は、(1) 価値の抽出記載に表われた学生の価値や価値態度がどのようなものであるかを明確にし、大学在学中にそれがどのような方向へ向かって形成され、成長していくかということを学生自身が深く追求、把握できるよう助けとなること、(2) 学問的文献に表われた価値観の諸前提を批判的、分析的に理解する助けとなること、および(3) 価値研究に関する文献を紹介することである。1962年度以降入学の学生全員が必修。第1学年年度の第1学期、第2学年年度の第3学期、第4学年年度の第2学期に各1単位ずつ順を追って履修のこと。」

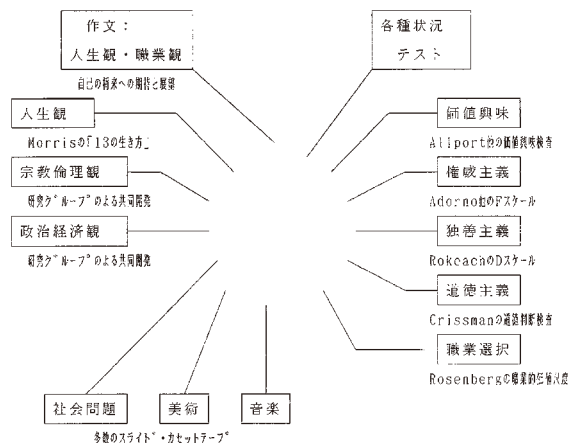


図1 価値抽出記載一覧表 (Troyer 他資料に加筆)

図1が示すような様々な調査が施行され、それらの回答を基にして個々の学生は自己の価値志向を洞察し、また、授業中の討議演習を通して他人との比較検討を行った。

これら諸調査の内、宗教倫理観についてはトロイヤー他(1964)、道徳判断と職業選択については原(1968,1970)および笛田他(1984)、人生観については岩崎他(1984)、原他(1992)、大井他(1994)、および岡林他(1995)、大井(1996)が論文で発表されている。また卒業論文では北山(1962)、竹上(1963)、太宰(1963)、上野(1972)、矢部(1974)、岩崎(1984)、笛田(1984)、鈴木(2006)また修士論文では鈴木(1988)、大井(1989)、岡林(1990)、吉田(2006)、さらに

博士論文では岡林(1994)、大井(1995)を挙げることができる。

原他(1992)は、90年代の価値観研究の枠組みとして、次の4つの問題を挙げ、分析解釈の担当者を定め、共同研究をした。

「1. 複数の異なる文化的背景を持つ価値体系は、どのようなパターンをもってわれわれ個人の意識に内在化されるのか。また被験者の属性を関連させてある特定の傾向を見出すことが出来るのか。(価値志向の基本構造と

多様性の問題)、2. 異なる価値志向の間に生ずる矛盾や葛藤に対し、個人はどの様に対処するのか。(価値志向の一般的力動性と個人的方略の問題)、3. これらの価値志向は、果たして多くの理論が仮定するように体系化され、自律性を獲得し、自我統合の中核として機能するのか。もしそうであるならば、どのような行動の変容を通してこの事実を確認することができるのか。(価値志向の発達機序の問題)、4. パーソナリティの成熟過程において、大学教育はどのような影響力を持ち得るか。また、教育効果の可能性と限界を査定する方法は何か。(価値志向に及ぼす大学教育の役割の問題)」原他(1991)は問題1を中心に、岡林(1994)は大学生の価値志向と教育環境の横断的比較を行い、問題4を中心に論じ、大井(1995)は60年代の協力者への追跡調査(質問紙調査と面接調査)と社会化のエージェントである両親への調査によって、問題3を中心に論じた。

2000年代においては人生観の質問紙調査を2004年度新生とその両親に行い、さらに大学生の2年次、4年次の縦断的調査を行い、60年代と90年代の資料との比較検討、および、在学中の変化を検討した。2000年代の研究の特徴は、質問紙調査協力者の中から応諾してくれた新生に面接調査を行い、さらに彼らの2年次と4年次に縦断的面接調査を行い、詳細に現代の大学生の価値志向の特徴を明らかにしたことである。栗山

他(2005, 2008, 2009)は面接調査によって、個人の語る生き方の志向性から価値の基本構造を直接把握することを試み、在学中の経験や個人の発達の文脈、精神発達の理論的観点から、価値志向の特徴を検討した。また、大井他(2007)は面接調査の資料と質問紙調査の資料を付き合わせ、人生観プロフィールの特徴を検討した。

図2で示したように国際基督教大学における1960年代からの価値観調査の資料が蓄積されている。昨年までは心理学の教員たちが細々と続けてきた「価値観研究」だったが、本年度から教育研究所のプロジェクトとして立ち上がったことにより、青年期の大学生の価値志向の詳細な探求と大学教育の役割を、より組織的、かつ持続的に検討することができると思われる。

下記に国際基督教大学の「価値観研究」関連の文献を記載した。

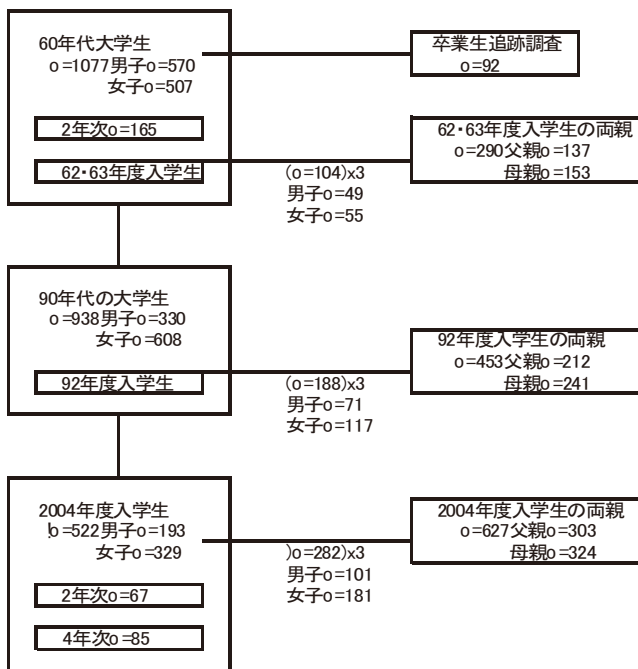


図2 国際基督教大学における人生観調査の相互関係

参考文献

- 太宰 紀久子 (1963). 大学生の価値観に関する一研究 学士論文 国際基督教大学 (未刊).
- Dobasi, N. (1974). A Longitudinal Study of Student Values in a Japanese Liberal Arts College : An Analysis of Change in Secular, Religious-ethical, and Politico-economic Values of College Students. Doctoral dissertation Syracuse University.
- 笛田理恵子 (1984). ICU在学生の職業的価値観に関する一研究 学士論文 国際基督教大学 (未刊).
- 笛田理恵子・石塚正一・原一雄 (1984). ICU在学生の職業的価値観の比較—20年前との比較— 教育研究 国際基督教大学 26 47-63.
- 原一雄 (1966). 大学生の価値観の研究 (その5) 自己および '他人' の道徳判断 第8回日本教育心理学会総会発表論文集 Pp.132-133.
- 原一雄 (1968). 大学生の職業的価値観 教育研究 国際基督教大学 13 108-131.

- 原一雄 (1970). 大学生の道徳的価値志向について 基督教文化会年報 16 16-27.
- 原一雄・大井直子・岡林秀樹 (1991). 大学生の価値観 (1) 人生観・宗教倫理観・政治経済観研究の一方法論 日本心理学会第55回大会発表論文集 624.
- 原一雄・大井直子・岡林秀樹 (1992). ICUにおける大学生の価値観研究 アジア文化研究 国際基督教大学 別冊3 91-100.
- 原一雄・大井直子・岡林秀樹 (1993). 大学生の価値観 (6) SD法による分析 日本心理学会第57回大会発表論文集 34.
- 岩崎正子 (1984). ICU生の人生観の調査研究 学士論文 国際基督教大学 (未公刊).
- 岩崎正子・石塚正一・原一雄 (1983). ICU在学生の人生観の調査研究-20年前との比較-教育研究 国際基督教大学 26 85-106.
- 北山雅子 (1962). 大学生の職業選択にはたらく価値観に関する一研究 学士論文 国際基督教大学 (未公刊).
- 栗山容子・大井直子 (2005). 大学生の価値志向 (1) 日本発達心理学会 第16回大会論文集 440.
- 栗山容子・大井直子 (2006). 大学生の価値志向 (4). 日本発達心理学会 第17回大会論文集 608.
- 栗山容子・大井直子 (2007). 大学生の価値志向 (5) -入学動機、大学生活との関連 日本発達心理学会 第18回大会論文集
- 栗山容子・大井直子 (2007). 大学生の価値志向 (2) -職業に就くということ- 日本心理学会 第71回大会論文集 32.
- 栗山容子・大井直子 (2008). 大学生の価値志向 一面追跡調査- 日本心理学会 第72回大会論文集 45.
- 栗山容子・大井直子 (2009). 大学生の価値志向 (6) -卒業時の追跡面接- 日本心理学会 第73回大会論文集 36.
- 栗山容子・大井直子 (2010). 大学生の価値志向 (8) -職業的価値志向の追跡面接- 日本心理学会 第74回大会論文集.
- 栗山容子・大井直子 (2010). 大学生の価値志向 教育研究モノグラフ 国際基督教大学 (印刷中).
- 岡林秀樹 (1991). 大学生の人生観と学生生活に対する態度の関連について 修士論文 国際基督教大学 (未公刊).
- 岡林秀樹 (1995). 大学生の価値志向と教育環境の時代的変遷 博士論文 国際基督教大学.
- 岡林秀樹・原一雄・大井直子 (1991). 大学生の価値観 (2) 人生観の時代的変遷 日本心理学会第55回大会発表論文集 625.
- 岡林秀樹・原一雄・大井直子 (1992). 大学生の価値観 (4) 人生観の時代的変遷 (II) 日本心理学会第56回大会発表論文集 157.
- 岡林秀樹・原一雄・大井直子 (1993). 大学生の価値観 (8) 人生観質問紙の簡略化 日本心理学会第57回大会発表論文集 36.
- 岡林秀樹・大井直子・原一雄 (1994). 大学生の価値観 (10) 観念的価値志向と行動的価値志向との関連 日本心理学会第58回大会発表論文集 50.
- 岡林秀樹・大井直子・原一雄 (1995). 大学生の人生観年代的変遷 心理学研究 66 2 127-133.
- 大井直子 (1989). 人生観に関する心理学的一研究 - Kilbyの価値尺度改訂への試み- 修士論文 国際基督教大学 (未公刊).
- 大井直子・原一雄・岡林秀樹 (1991). 大学生の価値観 (3) 人生観の縦断的研究 日本心理学会第55回大会発表論文集 626.
- 大井直子・原一雄・岡林秀樹 (1992). 大学生の価値観 (5) 人生観の縦断的研究 (II) 日本心理学会第56回大会発表論文集 158.
- 大井直子・岡林秀樹・原一雄 (1993). 大学生の価値観 (7) 人生観の縦断的研究 (III) 日本心理学会第57回大会発表論文集 35.
- 大井直子・岡林秀樹・原一雄 (1994) 大学生の価値観 (9) 大学生と両親の人生観に見られる時代的变化 日本心理学会第58回大会発表論文集 49.
- 大井直子・岡林秀樹・原一雄 (1994). 大学生と両親の人生観に見られる時代的变化 国際基督教大学学報 I - A 教育研究 36 103-124.
- 大井直子・岡林秀樹 (1995). 大学生とその両親の人生観における関連性とその時代的变化 日本発達心理学会第6回大会発表論文集 219.
- 大井直子 (1996). ライフ・サイクルと対応した価値志向の縦断的研究 -パーソナリティの発達の視点から- 博士論文 国際基督教大学.
- 大井直子 (1997). ライフ・サイクルと対応した価値志向の縦断的研究 国際基督教大学学報 I・A 教育研究 39 237-274.
- 大井直子・栗山容子 (2005). 大学生の価値志向 (1) 日本発達心理学会 第16回大会論文集 441.
- 大井直子・栗山容子 (2006). 大学生の価値志向 (3) 日本発達心理学会 第17回大会論文集 607.
- 大井直子・栗山容子 (2006). 大学生の価値志向 -1960年代と2000年代における大学生の価値志向の在学中の変

- 化一 日本心理学会 第70回大会論文集 67.
- 大井直子・栗山容子(2007). 大学生の価値志向(3) —ケースにおける13の生き方プロフィールの特徴— 日本心理学会 第71回大会論文集 32.
- 大井直子・栗山容子(2008). 大学生の価値志向(5) —大学在学中における価値志向の変化— 日本心理学会 第72回大会論文集 46.
- 大井直子・栗山容子(2009). 大学生の価値志向(7) —面接調査における志向性の変化の違いと縦断的質問紙データの様相— 日本心理学会第73回大会論文集 37.
- 鈴木加奈子(2006). 大学生の職業的価値志向「の構造に関する検討:職業進路指導への援助的介入の一展望」 学士論文 国際基督教大学(未公刊).
- 竹上秋彦(1963). 大学生の職業的価値観に関する一研究 学士論文 国際基督教大学(未公刊).
- Troyer, M. E.・藤本隆志・藤田恵壘(1964). 日本人学生の宗教的価値指向について 基督教文化学会年報 11 67-83.
- Troyer, M. E.・大和田康之(1964). 大学における方針決定と意志決定 国際基督教大学学報 I-A 教育研究 11 105-158.
- Troyer, M. E.・藤田恵壘・北山雅子・永野俱子・原一雄(1963) 大学生の価値観に関する研究 教育心理学年報 3 9-10.
- 上野直子(1972). 日本人大学生の人生観に関する一研究 学士論文 国際基督教大学(未公刊).
- 矢部なおみ(1974). 国際基督教大学在学生および卒業生の道徳的価値判断に関する一研究 学士論文 国際基督教大学(未公刊).
- 吉田恭子(2006). 女子青年における関係性発達モデルの検討 —自我同一性捉え直しの一考察— 修士論文 国際基督教大学(未公刊).
- 吉田恭子・栗山容子・大井直子(2007). 女子青少年の自我同一性における関係性発達モデルの検討 日本発達心理学会 第18回大会論文集.

大井 直子
OOI, Naoko